

Ⅱ 河川等水質調査

1 河川の概要

(1) 水質汚濁にかかる環境基準

水質汚濁にかかる環境基準は、公害対策基本法にもとづき、昭和45年の閣議決定によって設定されました。さらに、近年の産業の多様化に対応できるよう、平成5年3月に環境基本法による「人の健康の保護に関する環境基準」が改正され、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等水質汚濁にかかる人の健康の保護に関する環境基準の15項目が追加されました。さらに平成11年にはふっ素、ほう素、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素の3項目、平成21年には1,4-ジオキサンが追加されて現在に至っています。

また、生活環境の保全に関する環境基準のうち、今までの大腸菌「群」数(MPN/100mL)が大腸菌数(CFU/100mL)に変更されました。

基準値については、平成21年に1,1-ジクロロエチレン、平成23年にカドミウム、平成26年にトリクロロエチレン、令和4年に六価クロムが改正され、下記の表のとおりとなっています。

人の健康の保護に関する環境基準

(単位：mg/L)

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム (Cd)	0.003 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 以下
全シアン (CN)	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 以下
鉛 (Pb)	0.01 以下	1,1-ジクロロエチレン	0.1 以下
六価クロム (Cr ⁶⁺)	0.02 以下	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 以下
ひ素 (As)	0.01 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 以下
総水銀 (T-Hg)	0.0005 以下	チウラム	0.006 以下
アルキル水銀 (R-Hg)	検出されないこと	シマジン	0.003 以下
P C B (ポリ塩化ビフェニル)	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 以下
トリクロロエチレン	0.01 以下	ベンゼン	0.01 以下
テトラクロロエチレン	0.01 以下	セレン	0.01 以下
四塩化炭素	0.002 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 以下
ジクロロメタン	0.02 以下	ふっ素	0.8 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 以下	ほう素	1 以下
1,4-ジオキサン	0.05 以下		

生活環境の保全に関する環境基準

項目 類型	p H	B O D (mg/L)	S S (mg/L)	D O (mg/L)	大 腸 菌 数 (CFU/100mL)
A A	6.5～8.5	1 以下	2 5 以下	7.5 以上	2 0 以下
A		2 以下			3 0 0 以下
B		3 以下		5 以上	1, 0 0 0 以下
C		5 以下	5 0 以下		
D	6.0～8.5	8 以下	1 0 0 以下	2 以上	—
E		10以下	ごみ等の浮遊が認められないこと		

市内の公共用水域の類型指定と達成期間

指 定 水 域	水域類型	達成期間	指 定 年 月 日
多摩川上流(1) (和田橋より上流)	A A	イ	平成10年 6月 1日 環境庁告示第27号
多摩川上流(2) (和田橋から拝島橋まで)	A	ハ	昭和45年 9月 1日 閣議決定
成木川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号
黒沢川、霞川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号

(達成期間)

イ … ただちに達成 ロ … 5年以内で可及的速やかに達成

ハ … 5年を超える期間で可及的速やかに達成

主な有害物質について

物質名	性状・用途	健康影響・環境影響
カドミウム (C d)	重金属。充電式電池、塗料、メッキ工業など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。イタイイタイ病の原因物質とされる。
シアン (C N)	無機化合物。メッキ工業、化学工業など。水中では、シアニオン、シアン化合物として存在する。	生体への蓄積性はない。急性中毒を引き起こす。シアンに汚染された水を飲用すると急速に粘膜から吸収され、血液中で呼吸酵素を阻害し、頭痛、吐き気、浮腫などを引き起こす。
鉛 (P b)	重金属。鉛蓄電池、鉛管、ガソリン添加剤など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。
六価クロム (C r ⁶⁺)	重金属。化学工業薬品・メッキ剤などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。皮膚潰瘍、胃・肺ガン、鼻中隔湾曲などを発症する。
ヒ素 (A s)	重金属。鉱山、製薬、半導体工業などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。肝臓障害、皮膚沈着、皮膚がんなどを発症する。
全水銀 (T-H g)	重金属。化学工業、電解ソーダ、蛍光灯、計器などに用いる。	環境中で有機水銀に転換する可能性がある。
P C B (ポリ塩化ビフェニル)	有機塩素化合物。かつては、電気絶縁油、熱媒体、ノーカーボン複写紙などに用いられたが、現在は製造されていない。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。生体黒色色素沈着、塩素座瘡などを発症する。油症事件の原因物質とされる。

※出典 国立環境研究所 公共用水域の水質測定結果データの説明より

水の汚れを見分けるモノサシ

項目	説明
p H (水素イオン濃度)	水の酸性、アルカリ性を示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。通常日本の河川の pH 値は 7.0 前後、海域は 7.8～8.3 前後です。
B O D (生物化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
S S (浮遊物質)	水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつです。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害したり、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、河底の生物にも悪影響を及ぼします。
D O (溶存酸素)	水中に溶解している酸素のこと。酸素が水中に溶解する量は、気圧、水温、溶解塩類濃度により影響を受けます。1 気圧のもとで 20℃の清水には約 9mg/L の酸素が溶解します。水が清純であればあるほど、その条件における飽和量に近くなります。また、日中、水中植物の光合成が行われると、DO は高くなります。
C O D (化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが酸化剤で化学的に酸化するとき消費される酸素量をもって表したものです。数値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準では、海域及び湖沼の水質汚濁指標として用いられています。

※東京都環境局HP 用語集より

(2) 河川の汚染状況

青梅市では、市内の公共用水域の水質状況の把握と河川の環境保全のため、毎年定期的に河川の水質調査を行うとともに、水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所から公共用水域に排出される排出水の調査も行っています。また、有害物質等の蓄積を監視するため底質調査も行っています。

本市の河川の水質は、生活排水に起因する生活項目の1つである生物化学的酸素要求量（以下「BOD」という。）について、環境基準を達成していました。

(3) 主要河川の調査結果の概要

ア 多摩川

BODについて、本流2地点（御岳橋、多摩川橋）を比較してみると、御岳橋では年平均値が前年度0.7mg/L、今年度0.7mg/Lでした。また、多摩川橋では年平均値が前年度0.9mg/L、今年度0.7mg/Lでした。

環境基準については、御岳橋AA類型BOD1mg/L以下、多摩川橋A類型BOD2mg/L以下で、両地点ともに達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成して

いました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



御岳橋



多摩川橋

イ 成木川

BODについて、本流2地点（北小曾木川合流後、両郡橋[東京都調査]）を比較してみると、北小曾木川合流後では年平均値が前年度1.1 mg/L、今年度0.7 mg/Lでした。また、両郡橋では年平均値が前年度0.5 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



北小曾木川合流後



両郡橋

ウ 黒沢川

BODについて、本流2地点（峯向橋、落合橋[東京都調査]）を比較してみると、峯向橋では年平均値が前年度0.8 mg/L、今年度0.7 mg/Lでした。また、落合橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



峯向橋



落合橋

エ 霞川

BODについて、本流2地点（城前橋、金子橋[東京都調査]）を比較してみると、城前橋では年平均値が前年度0.8 mg/L、今年度0.7 mg/Lでした。また、金子橋では年平均値が前年度0.7 mg/L、今年度0.6 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



城前橋



金子橋

※ 市内地下水調査

環境調査のため、3か所の井戸で地下水調査を実施しました。

令和5年度の調査結果は、全地点において、カドミウム等重金属類の有害物質は検出されませんでした。

※ 事業所水質調査

水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所の排水の水質を調査しました。

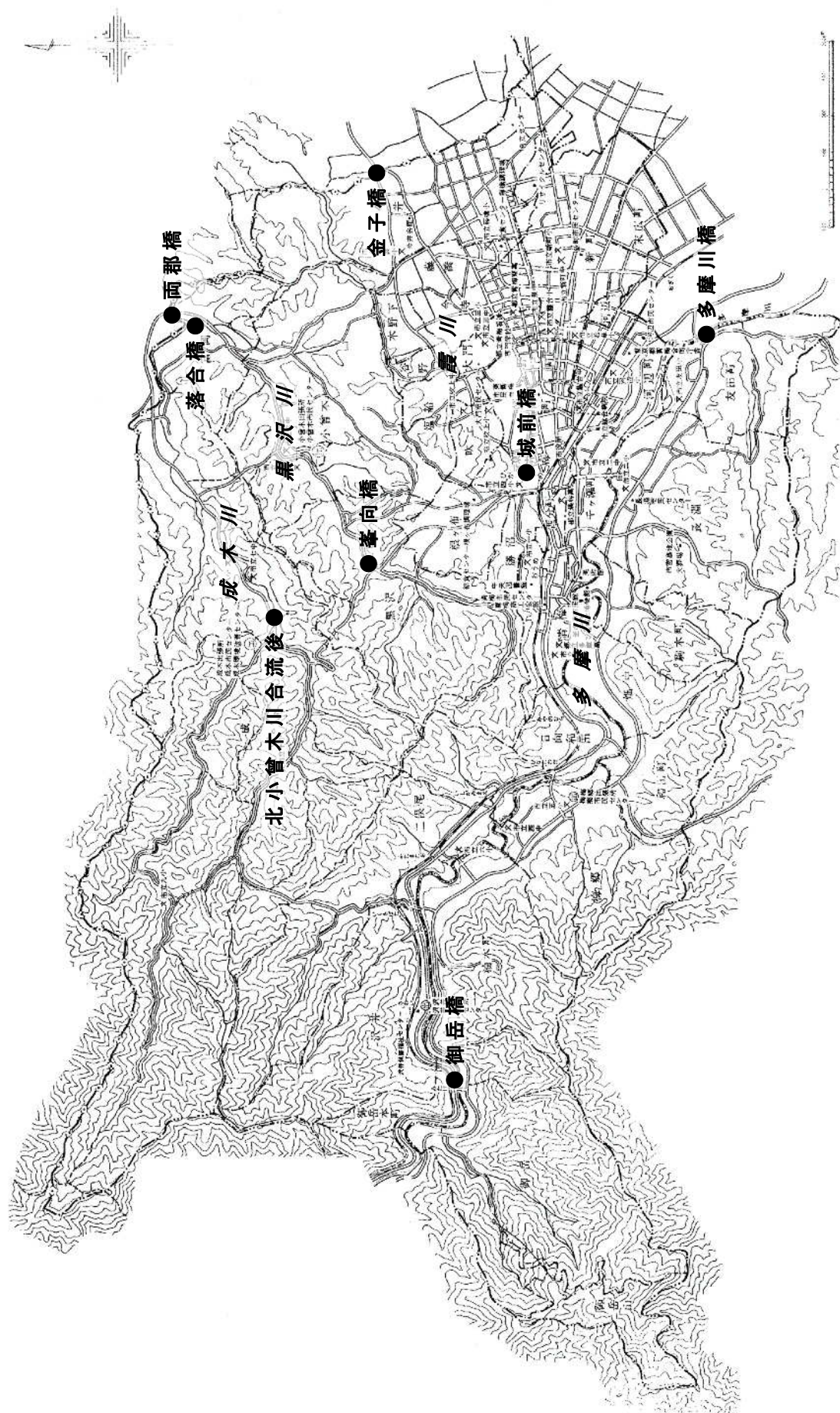
令和5年度は5事業所に立ち入り、調査した結果、すべての事業所で環境基準を満たしていました。

※ 河川および地下水中のPFOS・PFOA調査

環境調査のため、地下水2か所の調査を実施しました。

令和5年度の調査結果は、2地点とも国が定める暫定目標値50 ng/L以下でした。

河川水質調査地図



2 調査結果（年平均）

河川区分(類型)		多摩川本流(AA)		多摩川本流(A)			多摩川支流(なし)				
調査地点		御岳橋	神代橋	万年橋	下奥多摩橋	多摩川橋	平溝川	平溝川上流	町屋川	馬引川	田端川
現場測定項目	採取位置	右岸	右岸	左岸	右岸	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層
	気温 (°C)	20.7	25.8	25.8	24.2	21.9	15.6	32.0	30.0	16.5	30.8
	水温 (°C)	15.4	18.1	18.0	18.1	16.2	12.0	25.2	23.6	15.3	26.8
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.7	8.5	8.4	8.5	7.6	8.1	7.9	7.9	7.7	8.0
	DO (mg/L)	11.7				11.2					
	BOD (mg/L)	0.7				0.7					
	COD (mg/L)					1.8					
	SS (mg/L)	1				1					
健康項目	大腸菌数 (CFU/100mL)	3	1	9	11	12	9	18	8	0	
	全窒素 (mg/L)					0.75					
	全りん (mg/L)					0.021					
	カドミウム (mg/L)	<0.0003				<0.0003				<0.0003	<0.0003
	全シアン (mg/L)	<0.01				<0.1				<0.01	<0.01
その他の項目	鉛 (mg/L)	<0.001				<0.002				<0.001	<0.001
	ひ素 (mg/L)	<0.001				<0.003				<0.001	<0.001
	全水銀 (mg/L)	<0.0005				<0.0005				<0.0005	<0.0005
	1,4-ジオキサン (mg/L)					<0.005					
	全クロム (mg/L)	<0.01				<0.01				<0.01	<0.01
	MBAS (mg/L)	<0.02				<0.02					
	アンモニウム性窒素 (mg/L)	0.01				0.01				0.01	0.03
	りん酸性りん (mg/L)	0.006				0.007				0.012	0.028
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)					0.42					
	ふっ素 (mg/L)					<0.02					
	ぼう素 (mg/L)					0.01					
	六価クロム (mg/L)					<0.01					
	アルキル水銀 (mg/L)					<0.0005					
	PCB (mg/L)					<0.0005					
	全亜鉛 (mg/L)					<0.001					
	ノニルフェノール (mg/L)					<0.00006					
	LAS (mg/L)					<0.0006					
	追加15項目					不検出					

※追加15項目：ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン

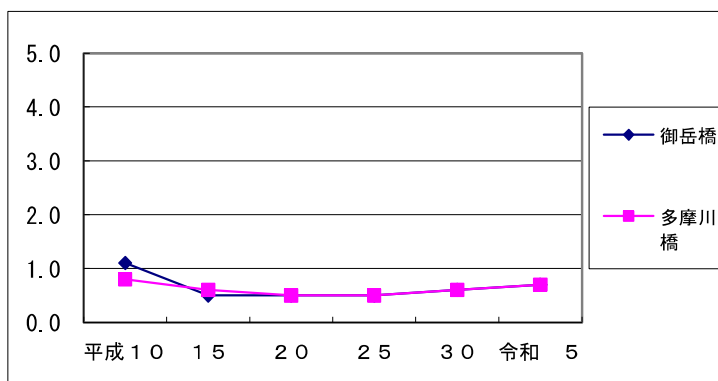
河川区分(類型)		多摩川支流(なし)						成木川本流(A)		
調査地点		清見川	清見川上流	千ヶ瀬川	鳶巣川	四谷川	大荷田川	山神橋	梅ヶ平	北小曾木川合流前
現場測定項目	採取位置	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層
	気温 (°C)	27.4	29.2	31.5	26.9	25.8	24.3	31.0	15.8	25.5
	水温 (°C)	22.1	24.0	25.2	21.3	19.3	20.0	25.0	11.0	20.8
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.4	8.1	7.5	7.6	7.3	7.2	8.1	8.2	8.4
	DO (mg/L)	8.8			9.8	10.7	9.1			
	BOD (mg/L)	0.5			<0.7	<0.5	<0.5			
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)	1			2	5	2			
健康項目	大腸菌数 (CFU/100mL)	8			24		11	38	10	23
	全窒素 (mg/L)									
	全りん (mg/L)									
	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003			
	全シアン (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
その他の項目	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
	ひ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
	全水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005			
	全クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	MBAS (mg/L)									
	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03			

3 BOD経年変化（数値は年平均値）

○ 多摩川

（単位：mg/L）

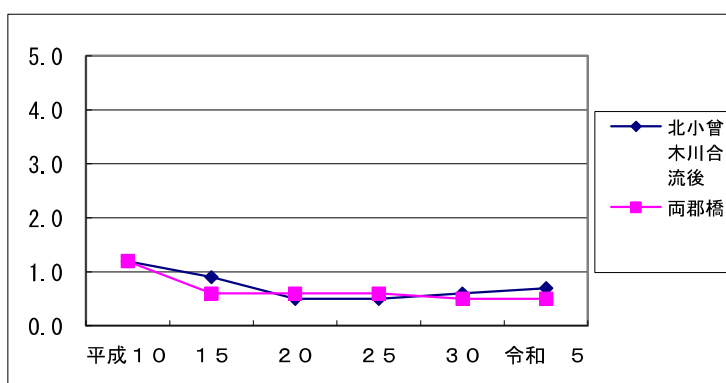
年度	御岳橋	多摩川橋
平成10	1.1	0.8
15	0.5	0.6
20	0.5	0.5
25	0.5	0.5
30	0.6	0.6
令和5	0.7	0.7
現在の環境基準	1 mg/L 以下	2 mg/L 以下



○ 成木川

（単位：mg/L）

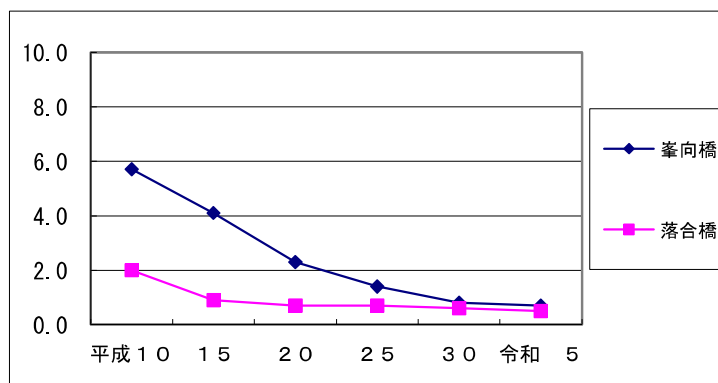
年度	北小曾木川合流後	両郡橋
平成10	1.2	1.2
15	0.9	0.6
20	0.5	0.6
25	0.5	0.6
30	0.6	0.5
令和5	0.7	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



○ 黒沢川

（単位：mg/L）

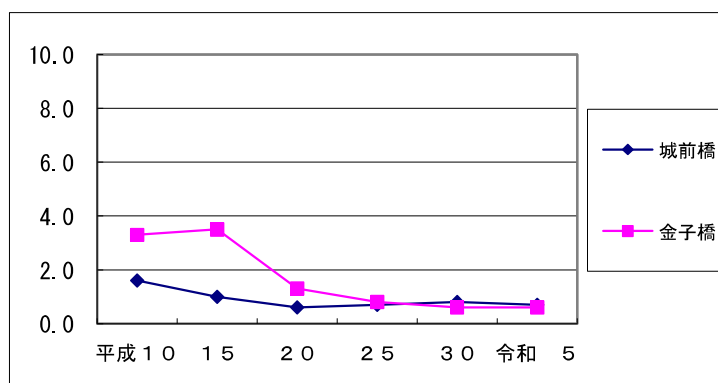
年度	峯向橋	落合橋
平成10	5.7	2.0
15	4.1	0.9
20	2.3	0.7
25	1.4	0.7
30	0.8	0.6
令和5	0.7	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



○ 霞川

（単位：mg/L）

年度	城前橋	金子橋
平成10	1.6	3.3
15	1.0	3.5
20	0.6	1.3
25	0.7	0.8
30	0.8	0.6
令和5	0.7	0.6
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



4 藻類・底生生物調査結果

調査目的：アユの餌となる付着藻類の現状把握のため、年３回、市内の多摩川の３か所において調査を実施しました。また併せて年１回、市民球技場において底生生物および川石の付着物の定性分析を追加実施しました。経年変化の確認のため、過去の分析資料から底生生物、付着藻類について出現種を集計したところ、年間変動に規則性は見られず、付着藻類や水生昆虫、魚類などの生物量が多く、アユも生息するきれいな水域であるとの結果でした。

調 査 日：令和５年４月２４日、令和５年８月２８日、令和５年１２月２０日

調査地点：市内多摩川３か所（市民球技場、和田橋、楓橋）

調査項目：（１）乾燥重量（採取した検体を乾燥させて計測したもの）
（２）強熱減量（採取した検体をガスバーナーで加熱して、無くなった値＝藻類などの有機物量）
（３）灰分率（無機物の割合）
（４）クロロフィル a（水中の植物プランクトンの量）
（５）付着藻類同定調査（令和５年８月２８日のみ実施）

（１）灰分等調査結果

調査日		4. 24	8. 28	12. 20
調査地点、調査項目				
市 民 球 技 場	乾燥重量 (mg)	7. 6	9. 3	37. 5
	強熱減量 (wt%)	44. 8	39. 3	26. 0
	灰 分 (wt%)	55. 2	60. 7	74. 0
	クロロフィル a (μg/cm ²)	2. 7	4. 5	5. 3
和 田 橋	乾燥重量 (mg)	5. 7	13. 7	85. 3
	強熱減量 (wt%)	46. 1	28. 2	16. 5
	灰 分 (wt%)	53. 9	71. 8	83. 5
	クロロフィル a (μg/cm ²)	2. 5	4. 8	3. 4
楓 橋	乾燥重量 (mg)	5. 8	7. 0	170. 6
	強熱減量 (wt%)	42. 7	35. 5	11. 5
	灰 分 (wt%)	57. 3	64. 5	88. 5
	クロロフィル a (μg/cm ²)	2. 7	2. 3	2. 0

(2) 付着藻類調査結果（調査日：令和5年4月24日）

ア 出現種一覧

単位：細胞数/mm²

No ・	類	種 名		市民球技場		和田橋	楓橋
		学 名	和 名	2023. 4. 24			
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒェロトヰランソウ	480	216	120	
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤエモ	2	270	24	
3		<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボヰランソウ	420	72		
4	珪藻類	<i>Melosira varians</i>	チャヅツケイソウ	5			
5		<i>Diatoma moniliformis</i>	イタケイソウ			10	
6		<i>Diatoma vulgaris</i>	イタケイソウ	10	29	29	
7		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビケイソウ	2		10	
8		<i>Fragilaria crotonensis</i>	オビケイソウ			5	
9		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビケイソウ	14		10	
10		<i>Hannaea arcus</i> var. <i>recta</i>	ハラケイソウ			5	
11		<i>Tabellaria flocculosa</i>	ヌサガヰタケイソウ		7		
12		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイソウ	288	634	605	
13		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ	2	7	10	
14		<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビヰルケイソウ	2	4	5	
15		<i>Cymbella janischii</i>	クチビヰルケイソウ	5	4	5	
16		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビヰルケイソウ	977	1, 080	106	
17		<i>Encyonema leei</i>	ハラミクチビヰルケイソウ		4		
18		<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクチビヰルケイソウ	60	58	216	
19		<i>Encyonema silesiacum</i>	ハラミクチビヰルケイソウ	960	828	1, 032	
20		<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビヰフネケイソウ		4		
21		<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビヰフネケイソウ	2	7	19	
22		<i>Gomphonema angustum</i>	クサビヰケイソウ		4		
23		<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビヰケイソウ			5	
24		<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ		4	5	
25		<i>Navicula subalpina</i>	フネケイソウ		4		
26		<i>Navicula tripunctata</i>	フネケイソウ	7	7	10	
27		<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカヰリクサビヰケイソウ		4	5	
28		<i>Achnanthidium convergens</i>	ツメワカレケイソウ	60	14	38	
29		<i>Achnanthidium minutissimum</i>	ツメワカレケイソウ	17	11	10	
30		<i>Achnanthidium pyrenaicum</i>	ツメワカレケイソウ	3, 108	9, 414	12, 528	
31		<i>Cocconeis pediculus</i>	コバンケイソウ	2	4	5	
32		<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイソウ	7		10	
33		<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノケイソウ	70	29	67	
34	緑藻類	<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビヰミトヰロ	72	29	14	
35		<i>Stigeoclonium</i> sp.	キノミトヰロ		22		
36		<i>Cladophora crispata</i>	シオグサ			5	

*:糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分 類 \ 調査地点	市 民 球 技 場	和 田 橋	楓 橋
藍藻類 Cyanophyceae	3 種	3 種	2 種
珪藻類 Bacillariophyceae	19 種	22 種	24 種
緑藻類 Chlorophyceae	1 種	2 種	2 種
種数合計	23 種	27 種	28 種
細胞数合計 (1 mm ² 当たり)	6, 572	12, 770	14, 913

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市 民 球 技 場	和 田 橋	楓 橋
優占種 (優占度%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (47.3%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (73.7%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (84.0%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (14.9%)	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (8.5%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (6.9%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (14.6%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (6.5%)	<i>Ulnaria inaequalis</i> ハリケイソウ (4.1%)

(3) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和5年8月28日)

ア 出現種一覧

単位: 細胞数 / mm²

No.	類	種 名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学 名	和 名			
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ビロウトランソウ	480	768	960
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤムシ	38	240	38
3	珪藻類	<i>Melosira varians</i>	チャツツケイソウ	96	240	
4		<i>Diatoma vulgaris</i>	イタケイソウ	10	10	10
5		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビケイソウ		19	
6		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイソウ			10
7		<i>Ulnaria pseudogailonii</i>	ハリケイソウ	19		
8		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ	19	10	10

9	<i>Amphora pediculus</i>	ニセクチビ ^レ ルケイソウ		29	10
10	<i>Cymbella compactiformis</i>	クチビ ^レ ルケイソウ	10	19	10
11	<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビ ^レ ルケイソウ	10	19	19
12	<i>Cymbella leptoceros</i>	クチビ ^レ ルケイソウ		10	
13	<i>Cymbella tumida</i>	クチビ ^レ ルケイソウ	10		
14	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビ ^レ ルケイソウ	1,344	1,536	240
15	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビ ^レ ルケイソウ	499	173	58
16	<i>Encyonema minutum</i>	ハミクチビ ^レ ルケイソウ	38		
17	<i>Encyonema prostratum</i>	ハミクチビ ^レ ルケイソウ		10	
18	<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビ ^レ フネケイソウ	67	134	221
19	<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビ ^レ フネケイソウ	10	10	10
20	<i>Gomphonema angustum</i>	クサビ ^レ ケイソウ		48	
21	<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビ ^レ ケイソウ			38
22	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビ ^レ ケイソウ	77		19
23	<i>Navicula bacillum</i>	フネケイソウ		10	
24	<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイソウ	10	19	19
25	<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ			10
26	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ	19		10
27	<i>Navicula gregaria</i>	フネケイソウ	19	19	
28	<i>Navicula minima</i>	フネケイソウ			19
29	<i>Navicula nipponica</i>	フネケイソウ		10	
30	<i>Navicula phyllepta</i>	フネケイソウ		48	19
31	<i>Navicula pseudacceptata</i>	フネケイソウ	19		
32	<i>Navicula subalpina</i>	フネケイソウ	58	19	10
33	<i>Navicula tripunctata</i>	フネケイソウ		10	
34	<i>Navicula trivialis</i>	フネケイソウ			10
35	<i>Navicula</i> sp.	フネケイソウ	19		19
36	<i>Reimeria sinuata</i>	カイコマケイソウ	38	38	29
37	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マガリクサビ ^レ ケイソウ	10		
38	<i>Achnanthidium convergens</i>	ツメワカレケイソウ	1,450	970	1,296
39	<i>Achnanthidium minutissimum</i>	ツメワカレケイソウ	38		19
40	<i>Achnanthidium pyrenaicum</i>	ツメワカレケイソウ	48	240	912
41	<i>Cocconeis pediculus</i>	コバ ^レ ンケイソウ	10		
42	<i>Cocconeis placentula</i>	コバ ^レ ンケイソウ	38	19	38
43	<i>Nitzschia dissipata</i>	ササノハケイソウ		19	
44	<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノハケイソウ		19	19
45	<i>Nitzschia frustulum</i>	ササノハケイソウ	19		
46	<i>Nitzschia perminuta</i>	ササノハケイソウ			10
47	緑藻類 <i>Cloniophora</i> sp.	クロニオフォラ	58		29
48	<i>Stigeoclonium</i> sp.	キヌミト ^レ ロ	5,568	29	1,056
49	<i>Cladophora crispata</i>	シオガ ^レ サ	10	10	
50	<i>Spirogyra</i> sp.	アオミト ^レ ロ		10	

※:糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分 類 \ 調査地点	市 民 球 技 場	和 田 橋	楓 橋
藍藻類 Cyanophyceae	2 種	2 種	2 種

珪藻類 Bacillariophyceae	27 種	27 種	27 種
緑藻類 Chlorophyceae	3 種	3 種	2 種
種数合計	32 種	32 種	31 種
細胞数合計 (1 mm ² 当たり)	10, 158	4, 764	5, 177

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Stigeoclonium</i> sp. キヌミドロ (54.8%)	<i>Cymbella turgidula</i> ver. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (32.2%)	<i>Achnanthes convergens</i> ツメワカレケイソウ (25.0%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Achnanthes convergens</i> ツメワカレケイソウ (14.3%)	<i>Achnanthes convergens</i> ツメワカレケイソウ (20.4%)	<i>Stigeoclonium</i> sp. キヌミドロ (20.4%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula</i> ver. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (13.2%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (16.1%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (18.5%)

(4) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和5年12月20日)

ア 出現種一覧

単位: 細胞数/mm²

No ・	類	種 名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学 名	和 名			
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒロウドランソウ	3, 360	400	192
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤエモ	2, 136	328	86
3		<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボウランソウ			48
4	黄金色藻類	<i>Hydrurus foetidus</i>	ミスオ	240		
5	珪藻類	<i>Melosira varians</i>	チャツツケイソウ	72	128	29
6		<i>Diatoma vulgaris</i>	イタケイソウ	144	96	29
7		<i>Fragilaria capitellata</i>	ホビケイソウ	240	64	38
8		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	ホビケイソウ	96	16	19
9		<i>Fragilaria</i> sp.	ホビケイソウ	120	72	
10		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハケイソウ	1, 152	96	19
11		<i>Ulnaria pseudogailonii</i>	ハケイソウ	24	8	5
12		<i>Ulnaria ulna</i>	ハケイソウ	24	16	10
13		<i>Cymbella compactiformis</i>	クチビルケイソウ		40	

14	<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビ ^ル ケイソウ	24	8	29
15	<i>Cymbella janischii</i>	クチビ ^ル ケイソウ		8	5
16	<i>Cymbella leptoceros</i>	クチビ ^ル ケイソウ			5
17	<i>Cymbella tumida</i>	クチビ ^ル ケイソウ	24	8	10
18	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビ ^ル ケイソウ	1,896	312	10
19	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビ ^ル ケイソウ	24	8	29
20	<i>Diploneis oblongella</i>	ナカケイソウ			10
21	<i>Encyonema leei</i>	ハミクチビ ^ル ケイソウ	24		
22	<i>Encyonema minutum</i>	ハミクチビ ^ル ケイソウ	24	32	34
23	<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビ ^フ ネケイソウ		64	
24	<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビ ^フ ネケイソウ	48	264	19
25	<i>Gomphoneis okunoi</i>	クサビ ^フ ネケイソウ	96	680	10
26	<i>Gomphonema angustum</i>	クサビ ^ケ ケイソウ			5
27	<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビ ^ケ ケイソウ	24	8	14
28	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビ ^ケ ケイソウ	48	16	
29	<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイソウ		16	19
30	<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ	48	24	10
31	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ	24	72	24
32	<i>Navicula lanceolata</i>	フネケイソウ		8	
33	<i>Navicula nipponica</i>	フネケイソウ	24		
34	<i>Navicula rostellata</i>	フネケイソウ	24		
35	<i>Navicula subalpina</i>	フネケイソウ	24	32	5
36	<i>Navicula tripunctata</i>	フネケイソウ		16	19
37	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカ ^リ クサビ ^ケ ケイソウ		16	10
38	<i>Achnanthidium convergens</i>	ツメカレケイソウ	936	240	379
39	<i>Achnanthidium minutissimum</i>	ツメカレケイソウ		16	10
40	<i>Achnanthidium pyrenaicum</i>	ツメカレケイソウ	3,960	920	360
41	<i>Cocconeis placentula</i>	コバ ^ン ケイソウ		32	48
42	<i>Nitzschia dissipata</i>	ササノケイソウ	48	440	106
43	<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノケイソウ	600	280	72
44	<i>Nitzschia frustulum</i>	ササノケイソウ	120		10
45	<i>Nitzschia perminuta</i>	ササノケイソウ	72	16	
46	<i>surirella bifrons</i>	オバ ^ン ケイソウ		8	
47	緑藻類 <i>Ulothrix zonata</i>	ヒビ ^ミ ト ^ロ	48		

*: 糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分 類 \ 調査地点	市 民 球 技 場	和 田 橋	楓 橋
藍藻類 Cyanophyceae	2 種	2 種	3 種
珪藻類 Bacillariophyceae	29 種	35 種	32 種
緑藻類 Chlorophyceae	1 種	0 種	0 種
種数合計	33 種*	37 種	35 種
細胞数合計 (1 mm ² 当たり)	15,768	4,808	1,727

*: 黄金色藻類 Chrysophyceae 1 種含む

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (25.1%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (19.1%)	<i>Achnantheidium convergens</i> ツメワカレケイソウ (21.9%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (21.3%)	<i>Gomphoneis okunoi</i> クサビフネケイソウ (14.1%)	<i>Achnantheidium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (20.8%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Phormidium</i> spp. サヤユレモ (13.5%)	<i>Nitzschia dissipata</i> ササノハケイソウ (9.2%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (11.1%)

(5) 底生生物調査結果 (調査日：令和5年8月28日)

ア 出現種一覧

単位：個体数／30cm×30cm×2回当たり

分 類	調査地点	市民球技場
水生昆虫 蜉蝣目 (カゲロウ)		
1 ヒメトビイロカゲロウ <i>Choroterpes altioculus</i>		1
2 アカマダラカゲロウ <i>Teleganopsis punctisetae</i>		2
3 トゲエラトビイロコカゲロウ <i>Nigrobaetis acinaciger</i>		1
毛翅目 (トビケラ)		
4 ヒゲナガカワトビケラ <i>Stenopsyche marmorata</i>		3
軟体動物		
5 カワニナ <i>Semisulcospira libertina</i>		1
環形動物		
6 ミズミミズ科 <i>Naididae</i>		5
7 シマイシビル <i>Dina lineata</i>		1

イ 出現種の分類学的集計結果

分 類		調 査 地 点	市 民 球 技 場
水生昆虫	蜉蝣目 (カゲロウ)		3 種
	毛翅目 (トビケラ)		1 種
軟体動物			1 種
環形動物			2 種
環形動物			7 種
細胞数合計 (30cm×30cm×2 回当たり)			14

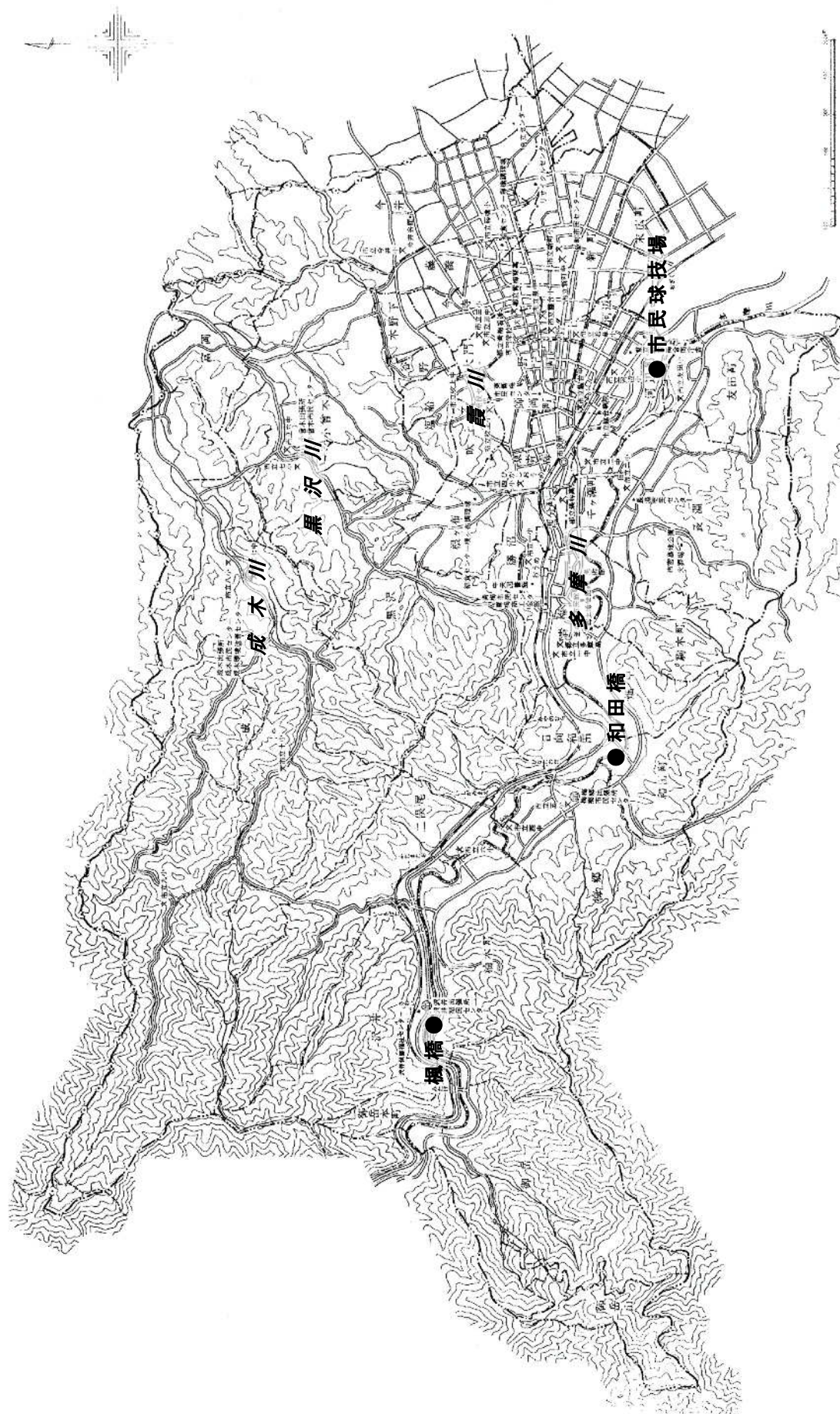
ウ 底生生物の優占種と優占度

調査地点	市民球技場
優占種 (優占度%)	<i>Naididae</i> ミミズミミズ科 (35.7%)
	<i>Stenopsyche marmorata</i> ヒゲナガカワトビケラ (21.4%)
	<i>Teleganopsis punctisetae</i> アカマダラカゲロウ (14.3%)

(6) 定性分析結果 (調査日: 令和5年8月28日)

調査地点	市民球技場
確認された主な鉱物	石英
	曹長石
	灰長石

藻類・底生生物調査地図



5 ダイオキシン類調査結果（東京都調査）

1 河川

(1) 水質

調査地点	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均
多摩川（和田橋）	0.063	0.063	0.063				0.062	0.062	0.062				0.062	0.062	0.062			
成木川（両郡橋）		0.063	0.063					0.063	0.063					0.064	0.064			
黒沢川（落合橋）				0.068	0.066	0.067				0.067	0.071	0.069				0.069	0.069	0.069
霞川（金子橋）	0.071	0.070	0.071				0.091	0.072	0.082				0.074	0.072	0.073			

単位：pg-TEQ/L

※環境基準：1pg-TEQ/L以下 平成22年度から成木川（両郡橋）における調査は年1回となった。

(2) 底質

調査地点	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
多摩川（和田橋）	0.21		0.21		0.21	
成木川（両郡橋）	0.60		0.28		0.30	
黒沢川（落合橋）		0.64		0.50		
霞川（金子橋）	0.98		1.10		1.30	

単位：pg-TEQ/g

※環境基準：150pg-TEQ/g以下

2 土壌

単位：pg-TEQ/g

調査地点	調査年度	測定結果
大門3丁目	平成13年度	120
長淵6丁目	平成13年度	52
河辺町8丁目	平成15年度	17
沢井2丁目	平成15年度	0.26
成木4丁目	平成15年度	32
河辺小学校	平成20年度	0.18
天ヶ瀬町	平成25年度	1.6
柚木町1丁目	平成27年度	6.5
河辺町1丁目	令和2年度	4.2

※環境基準：1,000pg-TEQ/g以下

平成14, 16～19, 21～24, 26, 28～令和元年、3～5年度は青梅市内調査なし

3 地下水

単位：pg-TEQ/L

調査地点	調査年度	測定結果
御岳2丁目	平成12年度	0.069
沢井2丁目	平成12年度	0.073
黒沢3丁目	平成12年度	0.072
木野下2丁目	平成12年度	0.076
御岳1丁目	平成13年度	0.062
柚木町2丁目	平成13年度	0.055
根ヶ布1丁目	平成13年度	0.055
今井1丁目	平成13年度	0.056
長淵2丁目	平成13年度	0.055
富岡3丁目	平成15年度	0.065
長淵8丁目	平成15年度	0.065
今寺1丁目	令和元年度	0.038

※環境基準：1pg-TEQ/L以下

平成14, 16～23, 25～30年度、令和2～5年度は青梅市内調査なし